性感染症に関する特定感染症予防指針の改正(概要)

○「性感染症に関する特定感染症予防指針」は、総合的に予防のための施策を推進する ため、感染症法(第11条第1項)の規定に基づいて定められている。

指針の対象疾患:性器クラミジア感染症、性器ヘルペス感染症、尖圭コンジローマ、 梅毒、淋菌感染症

〇前回の改正(平成 18 年 11 月)から5年が経過するため、厚生科学審議会感染症分科会感染症部会「エイズ・性感染症ワーキンググループ」において検討を行い、改正案をとりまとめ。

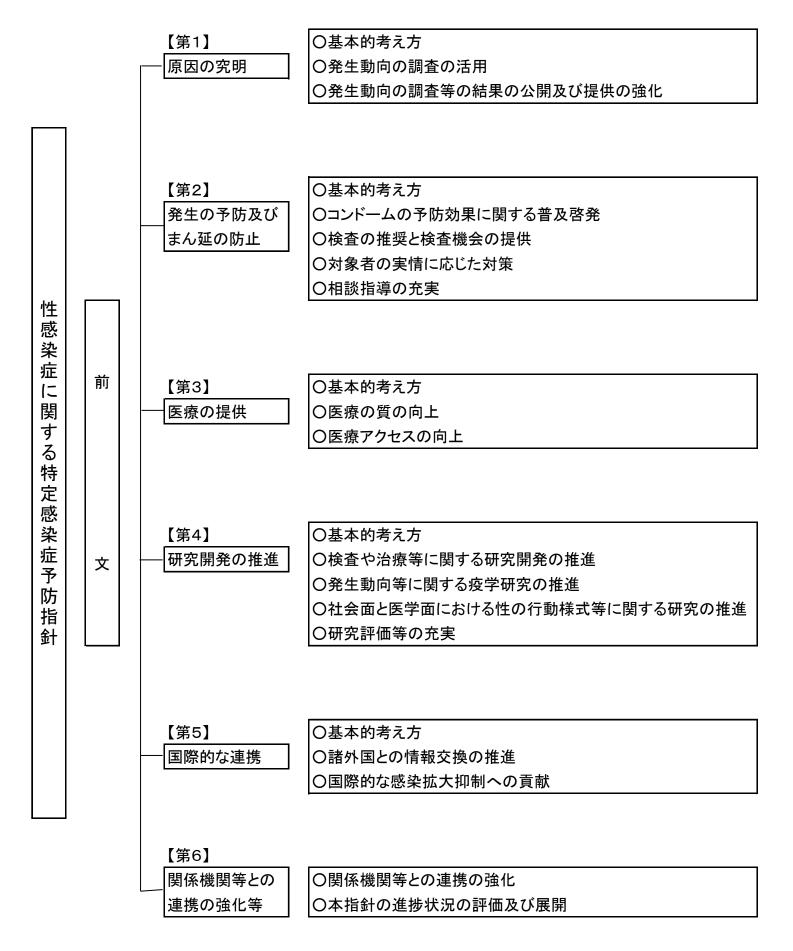
改正のポイント

- 1. 発生の予防・まん延の防止
- ●コンドームによる予防に加え、コンドーム以外の予防方法等に関する情報提供を推進
 - ・ワクチンが「尖圭コンジローマ」の予防にも有効であることの情報提供を推進
 - ・コンドームだけでは防げない性感染症があることや正しい使い方等具体的情報の 普及啓発を推進
- ●より精度の高い「病原体検査」を推進
 - ・性器クラミジア感染症・淋菌感染症について、精度の高い「病原体検査」を推進
 - 簡便な尿検査により病原体検査を実施できることを明記
- ●個人の実情・心情等に配慮した普及啓発等の実施
 - ・感染者のパートナーの意向を尊重して情報提供や支援を実施することを明記
 - ・ 犯罪被害者支援、緊急避妊のための診療の場での総合的な支援の必要性を明記

2. 医療の提供

- ●学会等と連携した医療の質向上の取り組みの推進
 - ・性感染症の専門家養成のための教育・研修機会の確保を推進
 - 標準的な診断や治療の指針等について積極的に情報提供・普及を推進
- ●医療へのアクセスの向上
 - ・若年者等が受診しやすい医療体制の整備や、検査から受診につながる環境づくり を促進
 - 検査や治療について分かりやすい情報提供の実施
- 3. 情報収集・調査研究
- ●発生動向のより的確な把握のため、指定届出機関(定点)の指定の基準づくりを実施
- ●性感染症のリスクに関する意識や行動についての調査を実施

性感染症に関する特定感染症予防指針の改正について(目次)



表

改

正

案

現

性

ル

ペ

ス

ゥ

1 ル

ス

感

$\overline{}$
傍
線
の
部
分
は
改
正
部
分
\smile

行

ことも問題点として指摘	影響があり得ることも問題点となっている。
した場合には、母子感染	性感染症に罹患した場合には、母子感染による次世代への
されている。特に、生殖	題点として指摘されている。特に、生殖年齢にある女性が
る様々な重篤な合併症を	染症の疾患ごとに様々な重篤な合併症をもたらすことが問
症候群に感染しやすくな	し、又は後天性免疫不全症候群に感染しやすくなる等性感
等の後遺障害や生殖器が	有する。このため、不妊等の後遺障害や生殖器がんが発生
、治療を怠りやすいとい	あるため、感染した者が、治療を怠りやすいという特性を
比較的軽い症状にとどま	症状、咽頭の違和感等の比較的軽い症状にとどまる場合も
とが多く、また、尿道炎	であることが多く、また、尿道炎、帯下の増量、皮膚粘膜
題の一つである。性感染	た大きな健康問題である。性感染症は、感染しても無症状
症であり、生殖年齢にあ	能性がある感染症であり、生殖年齢にある男女を中心とし
通に有し性的接触により	るとの特質を共通に有し性的接触により誰もが感染する可
」という。)は、性的接	」という。)は、性器、口腔等を介した性的接触で感染す
尖圭コンジローマ、梅毒	尖圭コンジローマ、梅毒及び淋菌感染症(以下「性感染症
性器クラミジア感染症	性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、

感染症は、感染しても無症状であるこにある男女を中心とした大きな健康問より誰もが感染する可能性がある感染的接触を介して感染するとの特質を共梅毒及び淋菌感染症(以下「性感染症 Jまる場合もあるため、感染し足炎、帯下の増量、皮膚粘膜症燃染症は、感染しても無症状で 摘染さに をも なる がんが発生し、又はいう特性を有する。 觛 年 年齢にある女性が性感染症もたらすことが問題点としる等性感染症の疾患ごとに れている。 る世。代 又は後天性免疫のため、感染した の 四題点として 影 が 症 症 あ 発疫不好がの りに て指 染症 患摘 る

れがあること、 機関に受診しな. 有することかる個人情報の保証 個れ 者 をい である。 ま う。 であ 以 護 な ò 下 めり、感染(ないことがも)で同じ。) だれないことがも 、への また、 公衆衛生対策上、特別な配慮が必要な疾の配慮が特に必要であること等の特徴をた、性的な接触を介して感染するため、。感染の実態を過小評価してしまうおそい。)が、自覚症状がある場合でも医療には、患者等(患者及び無症状病原体保有血は、患者等(患者及び無症状病原体保有血

有することから個人情報の保護に受診しな 機者 関を ま である。 といた、 う。 性 の保護 以 感染 しないことがない下同じ。)が ら、 あ 症 ij また、 EIじ。)が、, 生は、患者等 公の 公衆衛生対策上、特別な配慮が必要の配慮が特に必要であること等の特た、性的な接触を介して感染するたた、性のな接触を介して感染するたい。)が、自覚症状がある場合でもじ。)が、自覚症状がある場合でもは、患者等(患者及び無症状病原体は、患者等(患者及び無症状病原体 要な疾 一 Iでも 握 体 保 す医保る療有

さらに、 性 感 染 症 を取り · 巻 く 近 年 Ġ 状 況としては、 + 代

性感

染

症を取り

巻く近年

の

状況としては、

感染

°ま咽にかは 基 成 んら え 頭 お 減 + た け 感 少 年 + 0 上 染 る 発 法 で、 発代傾 生 律 生に向 動 ഗ 第 のかが 性 増 向 百 感 加 見 割け + の 染が ら 調四 合 て 症指 の 号 が れ 査 対策を進る前されて る 年 1= 齢 ŧ よ以 IJ 層の 下 進てと めいや 把 。 以 の 握法 ることかい、性行動 引き続 下 さ ていくこと ع れ 「 若 る い き十 報 年 う。 らの多 層」 告 、これらを踏っ が 代 多 数 とい の 第 は 半 全 + う。 ば 体 四 ごろ 的条

症

の

予

防

及

び

感

染

症

の

患

者

1=

対

す

る

医

療

1

関

す

る

法

律

平

正 予 成 لح 必にび 連 ഗ 後 し防 性 携 + 後 要 予 防 性 感 染 あ 天 方 天が若 防 い 止 を 性あ年染 る。 年十 性 义 知 法 に 又 免 免 る層症 はは 識 受 症 ·月厚 この 疫 疫 たをのけ の ま 感 は め対 予 不 普 ん 不 る 正 染 生 全 象 防 が 及 延 全 又 たし 0 省 等 を支援 症 学 校 ع 必 の 症 は めい 拡 期 の防 候 要 告 候 広 知 大 発 示群対止第に策対 で 群 等 げ た 識 防 見 性 とと予性連防 する る とそ あ 止 感 及 二百 関 策 可染 る。 1= が 7) 等 する つ等いに 感携染し 携対環能症れ 可 早 $\overline{+}$ 策境性 にに 能 期 ておい を づく 基づく 特 症 て が 対 七 な 治 (する予 号) 定 い はい重 あ 疾 療 正点的が る者 く点 患 感 本て 12 感 に 染指関 必 注 で ょ <u>へ</u>の 防 基症針連 染 要 に 重 意 IJ あ 一づく防 経が推要 対 にが 深 り治 基づく 発路、発 で 普 策 路あ進 (1 癒 る。 指 及 ع 対 し あ 行 性 て る。 。 策 針 啓 感 し 重 動 対め生まい لح てが染症 **平** 発 策 **の** のた < 特及は重症化

天い方天が若境性の重い

間つ合予 い的防本 団 に 法 指 体 て 予 等 針 が国防昭は 捙 の 和 三 こ + の た 携地 め 方 公 の Ξ て ょ 取共 施 年 う り団 策 法 な 組体を律認 推 第識 ん 進 百の で医 い療 す 六 下 る < 関 十に ·七号) べ 係 必 き課 者、 要 法 が **の** 題 あの施 教 る 育 廃 行 に つ関性 止に 後もう 感 い係 て者染 性 症 発民に総病

を

る

ز ع

を一

等層 症 の 対がし 半 、 挙げら という。 策を進め う。 れること か · ら 二 て いくこと とお十 かけ代 らる前、発出 が 発 半 たれられたかけ 重 要 で ある を加て ま 報 年 え告齢たる層 たさ層上れへ て 以 い 下 性感染と 年

がた症 がたがれる がたがれる 年 性 年 知法性 あ がた症行性 义 + る層 る 免 識 免 月 たを ij る 疫 の ま 疫 の が 不全 厚 6 め 対が者 防 重 不 普 性 症 象 重 が 生 全 及 延 感 止 ^ عُ の 必 省 等 予 症 の症 要 染 又 で 告 要 候 の防 候 校 で 普 症 は あ防 りには 示群 対 止 群 等た あ 及に 感 で ์ 3 ° (啓発 策 ع と予 第に 対 は あ 対 染 (につい |関 性 連防 す **ത** 早 携しておりた。 する 百 感携対 及 る 拡 期 正 + 染 び 予 大 発 を てお症、いは 特定 七 て 性 防 防 見 い 号) い はい重 対止 感 及 近 . 感 本 て 染 指 関 く点年染め角 策が び に 感 早 لح 可 لح 基 症 染要に加 針 連 の 能 づく 予 にが 経が推 が予 て 治 れ な · 防 指 基 深 路あ進報 防 は疾 療 に づくた発 る。 告さ を支 患 対 し 1= て 策 針 で ょ め 対 まいれ 援 IJ لح 生 染 あ 平策成と する る。 の < の て の 注 予 連 意 正 必 1) 可 十後 し防後要る環能

防昭十染 四症本 の和 号の患 指 = た 患 針 め 三年 ഗ 以者 は 施 下に 策法 一対 する を 律 法 の <u>ت</u> ع 第百 よう 推 医 進 六十 い療 な す 認 う に 認 護 る 七 必 号) 要 す の のる下 が 施法は あの る 廃 行 律 性止に 感 平 染 後伴 感 , , ŧ 成 症 染 性 **+** の 症 年 予 総 病 1 法 防 つ 合 予 い的 防 律 及 てに法第 び 予 百 感

正 生 しの い予 目 知 防 的識及 とのび すきま る及ん 等 延 のの 観防 点止 か ら良 新 質 たか なつ 取適 組切 のな 方 医 向 療 性の を提 示供 す

の加状症 はある菌へ なお、本地 ることに関 ることに関 ることに関 ることに関 え況 のな で あ 、の る 必 評 検 要 価 が 治指の留 等 ほイ指 あを療針感意 後かル針 に染する性 スの 天に と案に 対 認し関 いの必免 象 認めるときは、これをして、少なくとも五年関する科学的知見、木いては、性感染症の発 で あ あ全接尖 に る り症触生性、 ŧ コンジ 資 候 を 本指 計 B 介 クラミジ し て ででである。 本指針のが発生動向である。 を変更した。 型 のに と基肝染 ア マ づ炎 する を含 るこ 梅染 予 て再 さ 毒 症 進 い検 ち性 れ防めと及 討よ感る対多がび性 < 策数あ淋器 く染 ŧ を の加状症

一 第 え究

な要とた染あ染 る実状 がが等 めの 性 つ し 施病 し原 い染本原 て症的因 もの考の 保 発 有 ゛ら、 てのに関症生方明 動者 査 疫把に状動 向の 等 存の法そ学握受 で向 を 子的特徴をはすることが 総 在 他に の的 診あの 調査に対 を考 の基発 し でく動 的 な 調 く動をと発向踏が に慮査 い こがお 等を 分 と等 生動慎 ま え 難 多け 析 **〈** 活動慎用向重 る 必 えた対 重に対 が 調 なこと 要な て すのにる調把 題 あま るたは、 調 < でた 査 لح 査握を 等を追いてい し推あめ自病 とが 覚 原 進 す そ症体 くるその状に必必の感が感 ۲ 要加 で的無 し

> ん地 ら 良 で 方 ほイ指たかく共 針な つ 寸 の取適き体 も感対組切課 象のな題医 で方医に療 あ向療つ関 る 性のい係 性 を 提 て 器 供 示 すこ クラミジ 発 正生間 ۲ しの団 を目 い予体 ア 知防等 . 感 的識及が とのび連 す 普 ま携 る及んし。等なて 等 延 T のの取

観防り国

の留る菌へ え況のな感意感ルま点止組、の検お染す染染ペたか、ん で 染染ぺたか 染 す 染 染 ペ 症 る 症 症 ス あ `の る 必 評 の検お染 要価等 本の必はのウ本新質い公 治指抑要 あを療針制が後かル ると認いても資 等ににあ天に ス り性、免 免 染 めて、 する て す本疫性症 はる指不的 るときは の ものと期待な は、性感染症の は、性感染症の は、性感染症の は、性感染症の 科、も針全接尖学性のに症触圭 コンジ を介 を含 し れを変更しても五年ごとになれる発生動向、 さ て 予 1 本発れ防め感 る対多染 ੶ ੨ੑ 策数 すること 梅染 はあ て 再 進 い検 ち 性 く討 よ 感 もを く染

一第 本 原

あに症 な要とた染 あ染 る実状がが等 め、 の つ し 性 てて 感 施病 らあを 実 基 る 熊 もい染 し原 目 性 を医て症的因 こ的感 体 患 とと染正療もの考の 発 保 者 発 え 究 生 方 明 有 調かし症確機無 生 者 ら、 動 査 てのに 関 症 動 向の 等 疫 把に状 存の法そ 学握 受診 で 向 を 在 他にの的 する あ 総 の を る 調 合 の基発特 し ځ 的考調に うを づ生徴 な く動 いとに を 発向踏 が 分 Ļ 等 生を動慎 と等 ま え 難 を 多 ゖ 析 く、 活 る 必 要な な が 用 向 重 た ことで 対 策 あま題 す のに く こ 調査 る調 把 る 査を基 握を推し 握 た 等を追 病 あめ自 て進 が る。 原 覚

てに配市 つ慮及ま くこ いしびた 特国、区 て、 が 区及 要とする。収集され 収をび 重 要 い都 う道 で 府 あ る者。に た以県 に発 等 下 対生同 し、動 じ都 向 道 に 広 府 < 関は県 する個保 公 開 及 情 人 健 び報情所 提供を提供を設置 行 結 護 す っ果にる

基生 づ動 く向 発の 生調 査

におかど改す定 的染器況規情の を 把 地 と届 確症 定 報 徹 法 と出ににも機反つ ル に と底 定 域 る を に ~ す に 対 1 义 握 基 し 等 スウ 必るに関映 するこ そ る よ策 係 い て へできる き、 ŧ つ 機 要 ŧ て 活 の 1= の て は、 1 なの指指 て活 関 の 用改 とする ルス感 偏用 性 と定定 ととさ 指 善 し りする 感 すのの ょ 定 て及動 関 がるた学症 う、 は る状 基 届いび向の シ染症、 準 れ出 況 < 充の活 これ も実調用 発 生 いめ会の都上、発道 を 定 て機 、十万円、関係四 い貿 適 のを 発 道 査 生 府 宜 点 動 ら 尖 動 県 確 選 向 四 圭 るか と図に する。 りつい 性 ら 向は認定調 ーコンジ 器 つ の 1) カラミジ 届出によ 査の て し法 調 把 性握 別 て、 の感 査は 特 を 染 結 の よ 果 症 発 結 引 きる 年生り 指 患 携 を ア つ法果き の マ 者数 感 齢 動 具 踏 及 第を続 定 発 て 届 よ階向体 発 ま 生 び 染 う級調的 出の地 え動 淋 症 四本 機 よ 域 に 別 査 に関 う に 、な の 示 た向 の条的届 菌 なの示指を感 性状のな出

生

一情の

るに 対 関 玉 しネ 玉 す 及発 るび生 が情都動 等 広 理 報道向 解 < の を府の 多 経県調 公 開様 や年等査 及な す的は等 媒 いな の び 提体 よ変収結 をうれば、集の 供 を 行じエ分れ公 て、 し かた開 つ て たる調及 上よ査び 1) く こ うの提 れ で、 を必 な 結 供 ع 印図果の Jが重要であい票とする者の別様、イン図表に編集する 刷表や強 そ化

> てに配市 いつ慮及ま いしびた く こ て、 つ特 つ別国 لح が必 区及 心要とする。 収集された ひ都道府県 重 要 で あ る者た以県 に発 下 対 生 同 動じ都 向 道 $\overline{}$ 広に 府 く関は す 公 開 る個保 及情人健 び 報情所 提 と報を 分 供 の設 を析 保置 行 結 護 す っ果に

発 生 動 の

別査努え動淋症 の項報徹法 向 菌 状のと底 を感 性 に 的染 況 規 し 基 策 と届確症へをも出ににル把 域 る づ 定 を 定 て く向 すに 対関に 义 に 活 の に機反い関映 る る 基 ょ 策 係 必 つ **^** 握 用改発 、スウイ ŧ つ に 機 要 ŧ 関 映い す づ し 善 生調 りることとされっき、指定届出 て活 関なの指の できる て の て及動査 定定の定 は、 とす 偏用りす 性 いび 向の りす関感がる係染 ル く充の活 たとされに定届出 خ ه よ も実調用 玉 う、 届のを査 は と図に する。 IJ, 発 道適 症 て機 ょ つ うに 十関 い関 1) る 万 係 尖 調 て か に留意して、より人当たりのない。 特査は 向 は認選向 四 圭 性 ら を 調 つ 器 にの し定 \Box の して、 ンジ 把性 ラ 法 査の 結 引 届 ź と握で 感 別 ഗ 出法 果 第を続十基き 結 染 発の П ミに きる よ干 指 患 携 生 見 ジ 年 果 症 者数 齢動直を ア つ 定 の マ 発 及 感 届 よ階向 踏 て 条的届 し う級調にま生び染発第な出 出の地

ഗ

にタ るに -等 関 対 玉 しネ 玉 す及発 á 民 び生 が 情都動 広 等 理 報道向 < の 解 を 府の し 公 多 経 県 調 や年等査 開様 及な媒 す的は等 いな 提体 よ変収結 を う 供 化集果 通加がさの を 行 じエ分れ公 て、 つ しかた開 て た る調及 上よ査び くことが うの提な結供 れ で を 必 印図果の 要 刷表や強 ع 重 そ化 する 要 編 の 集分 で 1 ン す析

及 び ま ん 延 ഗ 防

止

本

がに性発の 策 < 性 生 積 重 て を行うことが た 要 染 の の め 及 極 で コンドー の 査 症 予 的 症 び な受診 ある医発及 の 都的 、環境づくりを進へ及びまん延の防止に有効であるといっん診による早期発見及び早期汁!「ムの使用並びに」「 予防 道 及 策 の 府 を支援 目 標 を は 行る環 設定 Ļ 感 特に、性感染で現境づくりを中で 染 正 症 し の 罹 い 知 識 を 症心の لح 普 した予言 いく 性検 予防 て つ 及 た情報で いくこと ととも 方 発 向 法防び等 の療 を 動まに 性 <

図 危 提 必 近供することを逐必要とする情報な 険 で行うもので 普及啓 いである ななな ☆を分かいできます。 SSる必要がある。 スはないものにすい、各個人の行動がりやすい内容は、一人一人が点 が 自 でする行動変の行動を性感染の自分の身体を 容にはなく を守る のに媒体 進まするにより

لح さらに が 重 の 普 L及啓発 実を図 必要で 実 一般 女である。この大情に応じて、 أ 、 ある。 を 的な普及啓発 実 実施するとともに、な普及啓発の実施に ょ このため、 IJ きめ 普及啓発 細 国及び都道府は一角の内容や方は か い 普及啓発 10 実 施 加 え、 1= を実 県法 当 若 等に配 た年っ層 現 相慮 てを し 談する は、中 て 心

ド 1 厶 の 予 防 果 関 する普及啓

対 の \Box ンド す 直 á 接 接 確 触を妨げる 厶 実 か は 性 基 本 お物理が対理が 染 症 的障壁として、 のに 果を 原 因となる性 有 けるも 器 性感染症 の 及 で ある び の が 腔 予 粘 そ 防 膜

の ま ん 延 の 防

止

本

策を行うことが 受けや-よる 感染 て た λ 玉 及 延 の め - 『『『うづくりを進めていくことが重』と関する情報等を提供していくとともに、冷の防止に有効であるといった情報、性感染年期発見及び早期治療が性感染症の発生の『一ンドームの使用並びに検査や匱脈(『『こと た 『』『 コンド 早 の 症 の び 施 の 予防 道 の 府え を支援 重 要 目 標 つであ は を す á る 性 定 環 染 境 いづくり 正 症 感査 染や性 し の い 感 知 染 中 識 症心 を の 重要で 感生積染の極 غ の 普 予防 検 及 査 的 症 予 ある。 予 防 の な 方 向 発 及 受び診 法 防 及 ع 療 生 対び

し

図 危 提 必 し険供 要とする ま た、 て性 すること 行うもので 及 を通 啓 報 発 は、一 人 がも人すーあののい人 が に行内 が る する行 自 分 の 身 体 感果染的 動 変 容症な を守る のに媒 罹 体 促 患に た 進 を意る ょ め りに

ことが 指 対 とした普 象者 導 さらに、 の が 重 の 充 必要で I及啓発· 実情 実 要 を図り、 で あ 般的な普及啓 1 る。 応じ を あ を実施するとともに的な普及啓発の実施 この て、 より ため、 き 普 め 及 啓発 細 国及び か のに、に い 普 内 1= 及 都容 加 実 え、 啓発 道 や 方 施 府県等はた方法に配っ に を実 当た 年 ·つ 現 相 て 慮 を 談する は中 て 心

\Box 厶 の 効 果 1= 関 する 普 及

防 لح コンド・ に対する確実かつ基本的なる直接接触を妨げる物 厶 は 避予好防 の 効 果の 理的 な 効 深果を有っ 4 障壁とし なら ず、 するも て、 性感 性 の 感染 で 症 あ 症 の 原 の そ予 因

ド 普 性 協 い ഗ くこ 力 及 効 啓 を Δ ع 求 の 発 症 めが特にが る 重性努あ ŧ べ 要 ع め る 1 き 性 る で あ感 で \Box り、症 き ン あ ゃ ド で コのあ正 予 る。 し 厶 -ド防 1) だ 効 国 使 け ム果のに 及い で び方 は 製係都等 防 る道の情解具 造 ぐ 販報県体 لح 売を等的 業提はな 等的 が で 者供 情 き に し コ 報 も て ン の な

よ染 て る 症 お < に 必 感 係 要染る産が症受婦 人科 あの診 る予の 防機 に会泌 つを尿器 え、 て 科 啓発がいる。 がなされるというなった。 れるよう働きムの特性と使いれいて、 き 使 か用性に感

必感染

検 査 の 推 ع 検 査 機 会 ഗ 提

さは検る は対の 基 畫 つ باحت て 査 提 都 必 とびは を 道 の 要検 供 性 病 考 症 対 がに査検 を 府 て器原、人体 慮状 象 重応の査 ヘル Ļ とする 要 趣の 等 体 病 じ 検 て で 旨受及 旨 原 は 性体器保 あ治 査 ペ 性 査 スウ 器ク 性 感 る 療 び を 有 感 に内 染 健 尿 深症とその4においている。 保健所が自己 はび付ける にっこう ラミジの 施 1 を 奨 症 所 すル検るス体 ゃ は、保健所なものとなるものとなっている。 医 ځ ア の 療 する・ 感感 機 ることが 染染検 6 理 関 民が受ける。 解させ 症の 重い な 査 検 る 及危項 査 要 って できる を含 を の び険目 で 可 淋性を 菌、選 た上 あ能 検 実 はむ 施 性 査 定する・ ー で 受 す体る制 に 抗 感 検 の 染 査 あ 係 体 そ を症のに簡 を診 場 の る る 検 さ際者 情 査 せ

用ど啓を 査 のそ本及 え 機の 会たし 会が、 ع 情 め 保に 報 が 都 検 0 ŧ 重 保 努 道 め府を 護 要 重 種 要に 行 で ととも で 留 事 あ あ意 の は る しつつ、 活 に保 用 ま た、 お 住 所 体 性 様 感染 Z の な 杳 送 け る の検付 症 診 結査にに し性 よる 関 や感 果の す 機 す 染 検 る い症 会 診 を査 普体の 者活な及制検

> 業提府の 者 供 県 効 1= し等果 ŧ てはに 協 1) つ カを求 くこと ジャンド コい て 普 めがし 及 るべ 重 啓 厶 要の発 き で性に あ感努 で り染め、 あ 症る コの ベ ン予 き ド防 で 効 あ 厶 果 のに 製係国 る及 造 情 び 販 報 都

> > 売を

道

要 染 症 なが 症 に お あの係 る予る産 防 受 婦に 診 人 つの科い機、 い機 で 啓発が 水 尿器 お がえ、 かなされるの医療機関 科 よう働、機関に き使お か用い けに て、 てよ、 いる性 く性感

検 杳 ഗ 推 لح 検 杳 機 会 の 提

検ること、は、検 は検 は対の に症 つ さ ては 等 提 道 を あ 無 供 5 考 症 対 がに 府 て 病 査 検 を ては 象 慮状 重 応の 原 査 要 じ趣 等 査 体 Ļ 病 とする性 の 抗 原 で て 旨 受 検 体保 実 体 査 性 あ治 及 診 鱼を、 器 る療に を推 検 び するものとする。 梅毒及び性のクラミジア感 感 有 内 染 健 1= 容を十 者 染保結 奨 症 所 する に ゃ か 症 健 び とがけるがけ ら 感 医 心ことがいて の 分 療 する。 に理 感 の自 る 機 つ器 染染 <u>ت</u> ح 関 検 b っ 検 症の 解 ^ 査 重い な ル及危 さ 要 ڵۓ 項 査が ルペスウイ: なび淋菌感は は目を選定は を で せ の 都 で 可 きる た上 あ能検 実 道 施 府 る性査 す体る制 のに 県 で 受 ル染 そ 査 す あ 係 ス症の感に簡 診 る の 場 を の さ際 実 لح 合 整 情染あ便きにえせにに 報

会試啓 を 査 を 行 発 のそ応に 活 なの 機 のじ る た 会 め 確 め検 ことが 個 保 て に都を < 情 重 努 道 め府施 要 種 報 とも 県 で る の 行 あと等る基で 保 事 の 重 護 ŧ 1= 活 留 で 用 ま に保 た、 健 あ意 ર્વુ しつ 住所 検 体 性 民に なつの 感がお 送染受け お 様付症診 る 々にに し 性 査なよ関 や感 の検 る す 染 す 査 検 い症 果の査 普 体の 機の及制検

ŧ 結 て、 び付け、 延染 のが 学 会 当 防判 玉 報 該 止 明 感染拡 等 受診 及 提 に し び 供等 が 必 都 者を通 作 要 大の防 道 な 成 合 府県等は、 した検査の手引き等を普 事 は じる 項 を行 止を図ることも に 当 など つ該 い 受 て 診 い 性 て 十 感染症 者 分 に の 明 当 検 査 該 及している yである。 ロには、医 の相手方 支援 性 感 す 染 方 る 医 症 に < 療に لح 0

匹 対 者 の 実 応 じ た 対

ഗ 実 情に 防 対 策を講 応じた ずる 配 慮 を 当た 行っていくことが重 って は 年 ゃ 要 性 別 で 等 の 対

係 の が情 守 連 るため 機 理解を踏 動 報 関及 え 要 提 し んば、 た で 供 要 び保護 、 ある。 を適 普及啓発を行うことが重 領 の情 若年層 まえることが重 . 則 切 報 その な媒 者等と十 IJ に - にヾ、 児童生徒の発達でいる。児童生徒の発達でいる教育においるの際、学校における教育においる。 よい はく理解 つ に対しては、 い て、 分に 葽 適 に連携し、学校にな安である。保健所等にの発達段階及び促 て 切 行 な 性 !感染症· 人材の 要 であ 育にお 協 る。 か ら自分の身体 力 を得、 お等保 解を得ること がは、 護 る 、 、 者 い て 教やは 教 正 育関 地 育 確 域 ع な

子に 内 て 炎 ŧ 求 ご等の特性 一条症性疾患の 女性は、 ま め の れ の を性 る 別 意 性 1= あ な 向 お る を踏 原因 ع あ 合が多い一方 ほ 配 ま よる。 る。 た 解剖学的に感染の危 て か 生 慮 る。そのためとなりやさ ま が は 殖 必要 えるととも 尖圭 犯 1= |関 性 でする健 で コンジ 被 感 ある。 め、 すく で、 染 害 者 症 Pに、対象者の安女性に対するが 支援 康問 感染すると慢 予 次世代への影響がな感染すると慢性的な母 防 険性が を含 ゃ 題 マ 緊 染 に め 急 つ 症 高 避 た 及 てとらえ 総合 ·普 及 < 妊 び 実 て の 情 は 妊 啓 た 娠 ゃ め る 年発あ骨 ゃ 染 盤 の配母齢は る

> 受診 項の 感染拡· 相 に つい 手 者 方 の て 十 大 に の 対 染 防止 分 し が 説 判 明 明 į 該 し 性 た 感 必 場 要染症 染合 重要 場の 合に ま で ん あ は延 受 の診 医防者 療止及 ににび 結 必性 び 要 付な 接 け事触

こととする。 にして、 さらに、 学 会 玉 及 がび 5都道府県等は、止を図ることも重 都道 作 .; し た検査 の手引き等 性感 染 症 を の 普及 検 査 の 実 て い施 くに

関

匹 対 の 12 応じ た 対

の 実 予 情 防 対 応じた配 を講 げるに 慮 を行 当 たっ っ ていくこと τ は、 年 が 重 要 性 であ 別 の 対

際、 携 とが 情 児 守るため 報提供 ر 童生 例えば、 _ 生 学 徒 校 重 学 要 多である。 安である。保健の発達段階ではいい、広く · 校 に の 若年層. 情 お 報 ける教 に つい に 保健所等は、教育関係機階及び保護者や地域の理教育においては、学習均広く理解を得ることが重 対 んては、 て、 育 ٤ 適切な 連動 性感 Ĺ た普 人材 染症 |及啓発を行うこと| の から自分の 理 指 重 協 解 要 力 を得、 を踏 · 要 領 つであ える。 ま に 身 えるこ 則 正 りその 体 確 が連 のな を

重

要

で

あ

る。

こと等 ても に 内 炎症 応 あ ま た、 じ 無 の性 症 特 特疾 状 女 別意性 性 患 殖 の な 場 ば、 向 がの ある。 を踏 合が解 配 関 する 慮 る。そのため、女凶となりやすく、 慮のほか、性感染明まえるとともに 多い 剖 学的 健 康 方で、 問 に 感 題 性感染症及 染 لح 感の染危 し 女 性 次世 て とら 対に象対 すると慢 険 び 代 性 する普 ž そ 者 が の る の 高 の 影 < 配 妊 実 性 及 慮 的 啓 ゃ が が な 年 発 の あ 骨 影齢は る

لح が か 6 ん ع ŧ チ ワ の 効 ク 果 チ 等 15 に ょ つ い つ て て の ŧ 情 予 報 防 提 が 供 有 を行うこと 効 で あ

が 重 要 で

が性多ミ · を有 いジ 方、 た ア なである。 「するので、感染症は、人、性感染症 で、 症 の そ防男 の止性 لح し の の の て 罹 防 注 も 患 が止に向けよい P症状が軽微し の可能性ので より す で 高 いあ LI いという特めることが 層 性 器 の 啓発 クラ

五 談 指 導 の

で び 導の相感策医 談染 あ 1 防 の 療 健 後 止及症観 望 相 らわを 談者医 天 びに 点 大性免疫不全症候がたりに当たっては、これの養成及が情報収集を円滑に係る検査の前後に係る検査の前後に係る検査の前後に係る検査の前後 からもないからもない。 指導等を行うことが、対する検査時の相談にに関する既存の相談の 有効 で 症候群対策との連携を図は、医療機関及び教育機関及び確保に努めるものである。そのため、都道である。そのため、都道である。そのため、都道である。そのため、都道である。そのため、都道である。そのにめ、独議を 指導機 会を活 用 ることが するとと 対する らるの 及ま関はじ 連 ŧ 重携まびんす要並た指延る た 保 性対

「「 は、 に当たっては、 薬を投与する等の医性感染症は、疾患やに 基本的考え方 ♪。また、 り活用に加えて、 ? れまん延を防ぐ最も ? もの医療が必要な疾 での ,自針、分か、気な方法でち、患であり、であり、であり、で じ し保針、 こやすい環境で味護等の包括ない 分かりやれるの ですいい ですいい づ 的 な 配説療治た IJ へ慮明の療治 のが 資提が療

> を有するので を有するので をある。 をかため、感染 はを有するので で染は染の、症 の 症 そ防男の止性 لح 近性し まった て んたお 延めいも のの て 防注も患 けり軽性たや微の 啓すで高発いあい 光が必要でいることがあることが る性

五 談 導 の 充

、導の相感策医 こに防談染の療 れ携止及症観相 でび 保 健 防談染の療希 止及症観相望 あに 後 わる 天 b を図 びに点 談 者 天性免疫不全症候群対策との連らに当たっては、医療機関及び情報収集を円滑に推進するとに係る検査の前後において、当点からも有効である。そのため、いる人材の養成及び確保に努めたる人材の養成及び確保に努めがある。 医 療指 人材の養成及び確保に努めるものとする。まる「報収集を円滑に推進するとともに、そのまんならも有効である。そのため、都道府県等は、指導等を行うことが、対象者の実情に応じた、対する検査時の相談指導、妊娠等に対する保 関 する 既 存 のの 相 談 の 及努びめ 機 会を活 連 教育機 携を図ることが 用する 関 との ま関は じ 連 重携まびんす、た保要並た指延る性対健 に

Ξ え提 方 供

基

料供二 次を投 等に次 当 感 の の活用に加えったっては、この (与する) (学症は、 医療の! 等の疾 は、診断や治療や延を防ぐ最も疾患や病態に え て い 断 個 針な患、方で て 保 方 護 適 分法 あ切 りに のかで ゚りや゚ **、ある。** 処方 包 実さ 的す ĺ١ なれ 医 説療治 た 治 慮明の療 が資提が療

配 慮 ŧ 必 であ

医 療 の 質 府県等に

るにつ 特に、 迅 IJ 速 な 玉 に提供し、 及 が .提供し、普及させるよう努めることが重要であなら、診断や治療に関する最新の方法に関する情! 学会等 び 都道 極的 の のに情報提供-の関係団体は、 は、 医 師 会等の 標 準 普 的 及を図ることが重 な診 関 係団 断 体 ゃ との 治 療の 連 要であ 携を図 る報。を

て

積

Ļ

Þ な診療科を横 ま た 玉 及 び 断 都 L 道 て性 府 県 感染 等 は 症 学 の 専門 会 等]家養成 ح の 連 の 携 た 12 め ょ Ŋ の 教

ア ク セ ス の 向 上

及

研

修

機会の

確保を図ることが

重要である。

す ることが重要で 行うことが重要であ の か を支援し ら 整 い資料等を作成し、ことが重要である。 備 若 受診 などの 年層 ていくことが重要である。重要であり、国及び都道府県でを作成し、民間団体等の協力 及び 環 等 治 境づくりとともに、 が性感染症 療に 民間 結び また、 付 1 検査や治療に び都道府県等は、その普及啓集を体等の協力により普及啓発を 関 し て受診 保健 しやす 所 に 制 つい づく 等に て分かっ 、りを推り お い ける検 矢 療 りや 進検体す査制

第 四 研 究 開 発 の 推 進

基本的

式や推な 性 医 が必要である。具体的に+%を提供するためには、性験症の拡大を抑制するといいまます。 よう 関 療 が療 する社会面と医学面 総 合的 1= 推進 することが するとともに、 1= における研究等を対策動向に関する疫学研究には、病態の解明に其性感染症に関する研究の 重要である。 より良 対策に活用では基づく検査の研究開発の段質かつ適切

> 必 であ

医 療 は情 強

りながる 速に 普及させるよう努めることがら、診断や治療に関する最新び都道府県等は、医師会等の18 の、診断や治療関係者へのは 関する最新 と 医師会等 対の方法 重 要である。 体と に関する の 連 携 を 义

迅

体との 連

、その普及を支援していくことが成し、普及させることが重要であ、包括的な治療等にとって有効では、最新の医学的な知見等を盛り くことが重 で分 あり、 IJ 込 要 かん

第 四 研 開 発 方の 推

式や推な 式に関する社会面と医説や治療に関する研究、活推進が必要である。具はな医療を提供するため、性感染症の拡大を抑制 を染本 で是供するためには症の拡大を抑制する 対策に活用研究、行動は1 つ 開 発 適 で様査の切

査 症や の治 検 査 やに す お研 い究 て開 発 待の され 推 進

を 効 査 法 果機 究 現 的会 の 新等たが さ でのか染 が 世 簡 拡 つ な 可 考えら-ない 便 大 正 の な 確 ような 能 治 たに 療 性れ め 結 る。 方 を の 果治関 視 また、の 素の用的 た変開的 たの発 治 法 実 が療 判にる 野 野に入れた研究開発また、ワクチン開発療薬の開発やそのtv する検 な検 査 新 薬査や薬 た な検え、 開発等を推進する開発の研究、予防の投与方法に関する療薬及び耐性菌 検 る 査 研 方 究 法 等、 て 検は

発 生 動 向 等 関 する 疫 研 究 ഗ 推

ŧ

重

要

であ

定 発 数 ば 玉 生 調 価 の 今 は 在 動 生 が 査 り方 体 動 可 向 後 性 能 感 向 の の性 後 の 分析 に関 天性 予 感 染 ഗ となる数 分 症防染 多 子 · 免疫不 する を行う 面 の対症 的 策の 無 研 な 値 に 発 症 究等の 把握 l を 的 た全め症 生 研 状 役 動向 究 立 病 確 て に の てい関)疫学研究 役 に推 追 立 加 くことがる各種点 一ててい 計 発 を 有 生 限 者 調 発 できる・ 査 に 動 定の とが重って、定量的な、出機野 よ指っ定 くこと し推 向 とた移重疫の性に要学 学 研 出比感関 で 較染症る あ 究 較 染 る。 要ると関研なるのである。 を強 全究例化

がを含研の 匹 玉 試 行 は 社 天 社 会面 性 で 会 的 あ免 面 染り 医医 医医 疫 不 Ź · 全学症面 クや 症学 性 を 感 面 候に 感 染早 に と 群対策の 性 が染の防止 期 症 お 予に け 発る 防 見性 策 の しの 研 の 1= 究と 行 行 関 ま 動様式等に関 する 意 ん 治 動 療に式 連 延 携 防 式 止結等 識 し 効びに て 進 果 付 関 行 する け め 動 に す る 関するのので る 研 究

> よう 合 的 に 推 進 すること が 重 で あ

杳 関 す る 研 究 開 発. **ഗ** 推

方る を効査 こ とも 研出果機迅性究現的会速感 法 研 ・の新たな可能性を視いまが考えられる。まれますのま活の実用的な***。 こせないような治療薬 してないような治療薬 していまが かいまれる いっための 実用的な *** の のか染 症 正の治 検 査 やに 治 療 判に お げる 入れ 発、 い ハれた研究開発が開発やそのほ 検 7 新たな 検 期 査 薬や 査 待 薬 さ 治 検 やれ ·検査方: ・検査方: 発 投 検る 研 耐開 進 1 予関性発 す て 防す 菌 検は

発 生 動 向 等 する 研 究 の 推

の候、えし、は、の場が、 に確のの候 疫学研· 语加調· 玉 役に 推 計 は 今 立 の 域 性後 を限 て 発 生動 できる・ てい 限感の性定染予感 究 査 し症防染 くことが ょ 向 指 って、 た たの性無策の関 よう努め 感 発 比 症に 定機較染状量関研症病 生 染状役 重 要 る 動 疫 <u>寸</u> 要である。 発生 など、 の原体 の て 向 学 究 選 に て 数保い関 評 定 発 (有者の推及する各種) の生調 価 『が可能-動 動 向 向 の 分析 ع に 天移性に 重 疫 の なる数 多 関 に要 する 免関 研 面 を行うた で 疫 する 的 あ 究 不 全 を 値 研 な を究の 研 強 め症究例化

てににけ 匹 る 進 関 関 国 する する たは社 め め る 会 若 研 研 の 面 究試 究を後天性免疫不 لح が 者 医 行 の学 重 的 研 性 面 社 つであ 感 究 会 1= 染 面 お 性感染を早まれる性 る。 لح 医 学 全 症期の行 症 面 症 候に 防 群お 発 動 け 見様 対 策 る の 策 式 性 等 ま **ഗ** の W 研 治 1= 療 究 行 延 関 12 لح 防 動 連 様 止 効 携式 び 等 果付究

五 究 価

ことが必要である、評価の高い研究するとともに、平 般 玉 供してい 研 ある。また、研究の結果につ研究成果に基づく施策を重点、研究の成果についても的確い計画を厳正に評価し、重点は等の充実 の くことが 重 葽 で である。 京確点的に的 ては、・に研究ないのでは、・ が究を支援 がないく よした上で

第 天 基性 本 国 的際 考的な 方 連

候がヒ 重 玉 ることの 『際的な連携に当たっては、この点を念頭に進めることが、は群とを併せて取り扱うことが国際的には多いことから、み、予防対策上の観点から性感染症と後天性免疫不全症」ト免疫不全ウイルス)に感染しやすいということにかんることのみならず、性感染症に罹患している者がHIV(後天性免疫不全症候群の主要な感染経路が性的接触であ で あな いみならず、性免疫不全症 る連の携

外 国 ع の 情 報 交 換 の 推

我け防 る研 が 玉 方 報 症 玉 法は にの究や関対の治 交 にの 換 政 成 療 府 1= 方法 . 努 間 め 、研究者門・ て いしていくこと 天 1) 性 くことが 2、疫学研究や社会間等における性感 免疫不全 くことが重要である。まの国際的な情報交換を推 望 ま 症 にはい。の 面染 研 品と医学面 な症に関する 究 つい また、 進 する 予 にお ても Ļ 性

的 な感 染 拡 大 抑 制 の 貢

活 動 玉 は の 協 世界保 力 を 健 強 機 化 はすることがまります。国連合同 関 重要である。 同エイズ計画(UNAIDS) 等 の

五 は研 究価

ことが必要である。、評価の高い研究成 するとと に 玉 . 提 供 もに、 研 していくことが である。また、研究の結い研究成果に基づく施策に、研究の成果について究の計画を厳正に評価してのの主の充実 重要である。 ついても 重 つ点確点的に的 てに評には進価研 め し 広く一く を で援

第 五

般

基 本 国的際 考的な 方 連

重要である。国際的な連携には群とを併せてがみ、予防対策 ることの 後天性 ら連携に当たっては、この点を念頭に進めることがu併せて取り扱うことが国際的には多いことから、r防対策上の観点から性感染症と後天性免疫不全症及不全ウイルス)に感染しやすいということにかんいみならず、性感染症に罹患している者がHIV(1免疫不全症候群の主要な感染経路が性的接触であ1 免 みならず、 不全ウイ ら、 症ん〜

諸 外 玉 推

玉 情 は 報 に関 究 交 の ゃ 対の旅線 換 政 関連する後天性免疫不全症候で、成果等についての国際的な情療方法の開発、疫学研究・ 府と 間、研究の情報・ 研究者間等 いくことが重要でての国際的な情報、疫学研究や社会問等における性感 な情報 い群要 は会面と医学では感染症に関す であ の 染症 研 交換を推 る。ま 究に つ た、 進 面に て L も性 お

玉 的 な 感 染 拡 大 抑 国制 の 貢 献

動国 は ഗ 世 界 力 保健 を強 化 機 入 関、 することが 連合 同 エ 要 女である。 イズ計画 ((UNAIDS)

活

染係関症機係 関 ح の لح 連 の 携連 の携 強の 強 化

る 生 間 係 労 機 ほ 及啓発活動 寸 研 る 体 症 か究 働 関 健と及所のび国 とともに、 成 省 لح の 果 後天性 対関 及のが情 連 は連 内 を ・学校教育 ・学校教育 ・学校教育 閣 携 策 の を必 都 報 充実を図ることが は 府 |免疫不全| | | 一角疫不全| 交 換 要とする 及啓 部科学省 官民連 拠連 等と ることが重要である育と社会教育との連 携 症 点 発 から ع を図 ŧ 候 医 群師 等 携 の 図ることが重で対策等に関い て 1 で 研 会 1= !よる施 等の 究 の お あ 情 け ij 開 うる 普 報 関 発 える。 ま 発 係 策 具 携 信 団 要係 で、 の 及体 いする各に 機能あ 体 推 啓 的 強 並 進 様 発に 化 のる。 に び 等 のは Z 。種にを連ま民性図携 な よ 強 る 化 携

指本 指 針 の 進 ち ょ < 状 況 の 評 価 及 び 展 開

組 組意 見 本 ഗ 見 直 を聴きなが 進 針 ち を有 よく しを行うことが重要である。 効 状 ら評 況 1= に機 価 つ能 を行うととも させるた () て、 定 が期的に は、 に 把 握 本 必 要に Ļ 指 針 専に門掲 応 心じて、 家等 げ た 取の取

> 六 関 係 関 機 係 関 関 ح 等 の لح の 連 携 連 の携 強 の 化 強 化 等

生労働 動もた、 間 感 る 係 同団体と 研究成 に、 機 の 充実 感 関 学校教 健 غ 成 省 ع 染 及 (を図ることが重 所 の び 果 の 症 玉 の 連 連 対 策 後 内 閣 及の 携等幅 公び都道 :育と社会教育との 普 情 携 及啓発の は 報 府 を 交換、 必 広疫 府県 要 文 部 とするも 及 い 不 科学省 拠 連 等 要 官 啓 全 携を図る 点と ع 医 民連 である。 症 発 から 候 連 し 群 師 携 等 の 対策等に によるに 研 携 ての 会等 対 で 強 あ 究 機 開 の IJ 化 発 能 関 施 る 1= 重 関 係 ま よる普 強 策 普 で、 化を図るとと 要 係 寸 の 及 体 体推 容発 であ する 的 及啓 並 進 に る。 を 種 民 性 図 Þ の は 発活 連 携 厚関

指本 針 指 を 針 有効 の 進 1= ち ょ < 状 況 の 評 価 及 び 展 開

組 組 意 は見を聴きながら評価組の進ちょく状況につ の本 の 見 直 を行うことが重要である。 (について、)がく 価を行うとともに 定期的に把っためには、 把 握本 必要に応じ 指 し 針 専 門 掲 て、 げ 家 た 等 取の取